

**【栄区】令和6年第3回区づくり推進横浜市議員会議  
議事録**

開催日時	令和6年9月6日（金） 午後3時30分～午後4時30分
場 所	栄区役所新館4階8・9号会議室
出席者	<p>【座長】大桑正貴議員</p> <p>【議員：2名】長谷川えつこ議員、輿石かつ子議員</p> <p>【栄区：30名】松永朋美区長、大塚尚子副区長、 横森喜久美福祉保健センター長、 大野豊福祉保健センター担当部長、 小野範子福祉保健センター医務担当部長、 宍戸由範土木事務所長 ほか関係職員</p>
議 題	<p>(1) 令和5年度個性ある区づくり推進費決算について</p> <p>(2) 令和6年度個性ある区づくり推進費執行状況について</p> <p>(3) 令和7年度栄区予算編成の考え方について</p>
発言の 要 旨	<p>(説明省略)</p> <p>大桑座長：令和5年度のセーフコミュニティについて、令和5年度で終わったとはいえ、令和6年度にも関わってくるのではないかと思います。終わったことの感想と次への発展についての考えをお答えいただきたい。</p> <p>松永区長：セーフコミュニティについては、地域の皆様と一緒に様々な分科会でいろいろなテーマに沿って活動を積み重ねてきたと思っている。そうしたものを生かしながら、今は地域福祉保健計画推進事業の地区別計画で、地域の皆様が自分たちの地域をどのようにしていこうかということ、福祉保健に限らず、防災など様々なことも含めて考えた計画となっている。また、区役所の中での様々な施策に、地域の皆様と一緒に話し合いながら引き継いでいきたいと考えている。</p> <p>長谷川議員：民生委員のなり手が本当に少ないということで、委員のご負担になっている。民生委員の負担軽減に向けた基礎調査が令和5年度に新規で入っているが、これについてシンポジウムの開催などされたと思っている。負担軽減につながるような何か具体的な案は出たか。</p>

栗竹史明福祉保健課長：民生委員の負担軽減、なり手不足というのは、栄区だけでなく全国レベル、横浜市レベルでも課題となっている。健康福祉局においては市の民生委員児童委員協議会も交えながら、どのような負担軽減ができるか、様々な検討を進めてきた。栄区においては、シンポジウムあるいは意見交換会を開催しながら、具体的にどういった部分が負担となっているのかを洗い出した。例えば地域の活動への関わり方でも、もう少し負担を減らせるのではないかといった意見も頂いている。また、活動記録の統計作成業務も民生委員が行っているので、そのデジタル化を展開していくという取組に着手している。こうした状況を踏まえながら、令和6年度の事業展開につなげていきたい。

長谷川議員：地域の大変な役割を担っている方にはありがたく思っている。ぜひそういった方が長くしっかりと続けられるように、負担軽減していただければと思う。

続いて、さかえ・森の魅力づくり推進事業において、緑地の利用実態調査をしたということだが、この調査を経て、何か感想や今後の対応などをお聞かせいただきたい。

田中麗子区政推進課長：この調査については、市内最大級の緑地である円海山周辺緑地に関する調査で、令和4年度秋から令和5年度夏にかけて4回の調査を行った。その前提として、緑地を所管するみどり環境局とこの円海山周辺緑地の活性化やその魅力の周知のために連携して行っている。現在、その調査結果を踏まえて、これからの展開について局と検討している。

長谷川議員：市街化調整区域や市街化区域などいろいろ区分けがあると思うが、市街化調整区域はしっかりと緑を残した環境をつくっていただければと思っているので、引き続きお願いしたい。

防災力向上事業の予算の執行率が111.9%と、当初予算より上回った執行状態であるが、昨今、甚大な台風、風水害が予測される中で、やはりしっかりと対策を打ったほうがいいと感じている。そのため、今回予算が増えた理由や当初よりも何か力を入れたことがあったのかお聞かせいただきたい。

金子強総務課長：今回、能登半島地震を踏まえて、下水道の直結式トイレが区内の20か所、全ての地域防災拠点に整備されているが、補充的避難場所の8か所には設置されていなかったもので、そちらに設

置したことが予算の増加につながった。

長谷川議員：福祉保健・健康づくり推進事業の再チャレンジ応援事業については、生活困窮者の方の自立支援ということで、就業につながるサービスを行っていると思っている。今回この事業を通じてどのような方がどういった職につながったなど、そのような事例があればお聞かせいただきたい。

荒井統太生活支援担当係長：再チャレンジ応援事業では、主にキャリアサポートノートの作成とスーツの貸出しを行っている。特にキャリアサポートノートについては、生活支援課で支援を受けている方、特に就労支援を受けている方にお配りして、就職のお手伝いから、そして就職後の何か悩みがあったときの相談までが一から書いてあるノートとなっている。就職に当たっては、区役所内にあるジョブスポット、ハローワークの出先機関と一緒に活動しており、若い方から高齢者の方まで様々な方が就職している。昨年度の実績は、133名のご利用のうち、就職者は96名となっている。具体的には、最も高齢の就職者だと80歳を超える方も就職しているなど、高い実績がある。

長谷川議員：素晴らしい実績があり、大いに区民の方に役立つ事業だと思う。今後もぜひ仕事につながる手助けをしていただきたい。

興石議員：区提案反映制度において、区から空き家対策を行う自治会町内会の活動支援策というのを出しているが、それが生かされた令和5年度の政策は何かあるか。

田中麗子区政推進課長：今資料は持ち合わせていない。

興石議員：後ほど資料をお願いしたい。

本郷台駅周辺の公共施設の再配置検討について、令和5年度決算での検討状況などを教えていただきたい。

田中麗子区政推進課長：決算でいうと、区局連携促進事業の297万円が該当する。令和6年度については、自主企画でやっていたまちづくり推進事業の細事業が終了したので、関連する事業はこの資料の中にはない。検討自体は令和4年度から区局連携促進事業ということで令和6年度まで予算があり、関係区局とともに検討を深めている状況。

興石議員：分かりました。また、市営住宅の建替えに伴う戸数調査を建築局の予算でやっていると思う。そこと連動していただきたい。区

提案反映制度の中では都市整備局と財政局の記載はあるが、建築局の記載がないのであった方がいいと思う。

田中麗子区政推進課長：区提案反映制度の関係局は財政局と都市整備局となっているが、これはまちづくりとして公共施設全体を考えていくという観点から、メインの局は財政局と都市整備局ということになっている。ただ、プロジェクトとしては、施設を所管している局全てと検討を続けているので、その中には建築局も入っている。関係区局で力を合わせて、よりよいまちづくりのために検討していく。

興石議員：引き続きよろしくお願ひしたい。

長沼地区において地域開放できる広場の整備を令和5年度予算に向けて提案しているが、決算の資料の中で記載はあるか。

田中麗子区政推進課長：長沼スポーツ広場の件は、局事業で行っているので、今回の資料に記載はない。

興石議員：区としては町内会の方たちから区に対しての声が聞こえてくることがあると思うが、そういうときに何か返答できるような体制というのはあるか。

田中麗子区政推進課長：区としては、地元の方々と事業を執行している局が協議する際には必ず同席していて、地域の方々の声を局事業に反映できるよう調整している。

興石議員：特に利用ニーズの実態に合うような提案の道というのは開けそうか。

田中麗子区政推進課長：長沼スポーツ広場については、代替で使える場所を用意できるか、局と協議している状況は把握している。下水道河川局の水再生センターに代替で使える場所を用意する方向で調整が進んでいると聞いている。

興石議員：長沼スポーツ広場の代替としてお祭りの開催などを、その水再生センターの用地でできる可能性があるということか。

田中麗子区政推進課長：限られた面積になるので、地域の方々のご要望が全て反映できるわけではないが、局とできる限り地域のご要望に沿うように対応していく。

興石議員：よろしくお願ひしたい。

さかえの野菜めしあがれ！のイベントで、野菜摂取量測定機会の拡大があるが、この手応えについて教えてほしい。

栗竹史明福祉保健課長：現在、野菜摂取量の測定機器をリースしており、様々な地域のイベントや保健活動推進員が各地域で啓発活動をする際に活用している。また、この事業にある、誰もが自然と健康でいられる食環境整備に向けた啓発事業という、令和5年度から新規で取り組んでいる移動販売の場を使った食環境づくりにおいても活用しており、実際に移動販売を利用されている方が今どれだけ野菜を取られているのか確認し、足りないと感じたらその場で野菜を買っていただくなど、取組をつなげるために役立っている。

興石議員：区提案反映制度の中に事業者等と連携した食環境づくりがあるが、ベジチェックなどもそれに含まれるということか。

栗竹史明福祉保健課長：そのとおり。

大桑座長：本郷台駅前の市営住宅の戸数については、恐らく維持していかなければいけないという約束か何かがあったと思うので、そこを維持しながら、どのようにいろいろな公共施設をつくるかというところは、都市整備やファシリティマネジメントとしっかり話をして柔軟に対応していただきたい。また、UR賃貸住宅についても今後、UR都市機構と一緒にやるという話になるなら、栄区としてもしっかりと間に入って、うまくまちづくりを進めていただきたい。

3R推進事業について、10月からプラスチックごみの分別が拡大するので、区の事業と関係があれば教えていただきたい。

須賀裕司資源化推進担当課長：プラスチックごみの分別拡大については、基本的には資源循環局がメインで進めているが、区としても、店頭啓発に加え、駅頭啓発など、資源循環局栄事務所と連携しながら取組を進めていく。

大桑座長：区本部機能の強化の災害用ドローンの配備だが、栄区でも個人的にドローンを持っている方がいる。その方と話していて、災害時だけなのか平時からなのか分からないが、区役所と連携できると、災害時などに、個人が先にドローンによる情報提供もできると思った。難しいと思うが、検討していただきたい。

横浜駅で高校生が飛び降りた件があった。令和5年度では自殺のことがセーフコミュニティにあり、令和6年度は地域福祉保健計画推進事業のほうに入ってくると思うが、栄区としても、学校

が始まったばかりなので、アンテナを高く持って、子供たちのためだけでなくみんなのために活動していただければと思う。

長谷川議員：子育て家庭支援事業で両親教室を開催したとあるが、両親教室と妊産婦交流事業に何名くらい参加があったか。

矢口照彦こども家庭支援課長：両親教室は、大体上限の 20 組で、妊産婦交流事業は、大体 12～13 名に参加していただいている。

長谷川議員：私も子供がまだ小さい頃にこういった教室に通わせていただいて、そこで横のつながりができたことがその後の子育てにとってすごく有効的だと感じた。ぜひこの事業をもっと拡充して続けていっていただきたい。

誰もが安心して出産や育児ができるまちづくりのタブレット端末を活用した窓口サービス強化事業で、今回、子育ての応援サイト・アプリの導入を踏まえて、手続を簡素化するためにタブレットも導入されていると伺っている。やはり子育てをされている今の若い世代の人たちは、タブレットの方が紙よりもなじみがいいのか。また、タブレットを導入した結果の反響についても教えていただきたい。

矢口照彦こども家庭支援課長：資料にタブレットの導入という記載があるが、タブレットは職員が窓口で説明時に使っており、タブレットを配布して何か窓口の手続きで入力いただいているものではない。こども青少年局で導入した子育てアプリの説明の際に、実際に画面を見て説明するために職員用としてタブレットを導入した。

長谷川議員：パンフレットなどは紙だと見やすいが、持ち運びや紛失のことを考えると、データであるといいと思っている。窓口でもそういった資料を見られた方が、紙でももらえるし、スマホなどで同じ資料が見られると分かるのでよいと思っている。

健康増進事業で、健康づくり推進会議を 8 月 1 日と今後 3 月に行うということだが、これはどういった方々が集まって、どういった事業をされたのか、教えていただきたい。

栗竹史明福祉保健課長：この会議については、令和 5 年度に立ち上げたが、それまでは健康づくり推進月間ということで、特に 10 月に強化月間ということで取り組んでいた。令和 5 年度からは通年の取組ということで、区内の関係団体、三師会の皆様、保健活動推進員

の方、地域ケアプラザの所長、移動販売の事業者などに入っていたら、健康づくりに関する情報交換、さらには連携を図っていくためのきっかけづくりということで開催している。今回、8月1日に開催しているいろいろご意見や取組報告があった中で、特に印象に残ったものとしては、薬剤師の方から薬の適正な使用の啓発活動に取り組んでいきたいというものがあった。既に地域ケアプラザでもやっていただいているようだが、若い世代への薬物の乱用防止に向けた啓発にも取り組みたいとのお話をいただいている。

長谷川議員：まだまだ暑い時期で、熱中症であったり、夏はコロナもはやっていたりしていたので、そういった感染症等もぜひご教授いただいで、皆様が安心して過ごせるような、そんな会をぜひ続けていただきたい。

高齢者のICT利活用支援事業の中で、今回、大学生等にボランティアで参加していただいたということだが、こういった大学生の方たちがどのようなボランティアをされたのか。

小嶋宏子高齢・障害支援課長：今回、大学生を募集させていただくに当たり、4月に入る前から大学と打合せ、ご相談をさせていただいた。大学からのご助言も取り入れながら募集したところ、非常に多くの方に集まっていた。主にお声かけしたのは明治学院大学と横浜市立大学で、その大学が一番多かったが、それ以外の大学からもご参加いただいた。実際にやっていただいた内容は、スマホ教室と個別相談会の2つの事業だが、教室の場合はグループになってテーマに沿った説明の中で、高齢者の方が操作で分からなくなったときの補助をやっていただいた。個別相談会の場合は具体的に1対2ぐらい、高齢者1に対してボランティアさん2ぐらいで対応した会場もあったが、高齢者の方のご質問に対して学生が答えていくという内容で対応していただいた。どちらも事前に研修などをして対応しており、高齢者の方やボランティアの方からも好評だった。

長谷川議員：双方にとってすごくいいコミュニティがつけられる場だと聞いていて思ったが、アンケート等を取った中での感想などがあればお聞かせいただきたい。

小嶋宏子高齢・障害支援課長：アンケートはまだ集計途中だが、ボランテ

イアの方からは、ふだんは接しない世代とお話できてよかった、役に立ててよかった、楽しめたという声と、高齢者の方からも、若い人がとても親切にしてくれたというようなご意見を頂いて、双方が双方を理解するというような教室、相談会になっていたと感じている。

興石議員：地域防災に関することだが、地域防災拠点の支援で、新規でファーストミッションボックスの配備がある。これは全拠点に配置するのか。

金子強総務課長：今準備しているところだが、地域の方々にも意見を聴きながらつくっていかなければいけないと思っている。目的は、地域防災拠点の運営委員会の方々には拠点の開き方について大体できる方が多くなってきているが、その方々が必ず一番で拠点に行けるわけではないので、そのほかの方々が来ても拠点の鍵がどこにあるとかどこに何があるのか分かるようなものを、ミッションボックスという形で整備したいと思っている。そのため、20 拠点に準備していきたいと考えている。

興石議員：いつもお話しさせていただいているマンション防災の関係や、国も大きくかじを切った在宅避難の方向に向かってという面でも、拠点の強化と併せて、在宅避難は何なのかということもやっていかないといけないと思っている。在宅避難者の、いわゆるマンションとかの共同住宅、そういったところにファーストミッションボックスの配備というのは検討されているか。

金子強総務課長：まだ予算的にはないが、予算の残額や今後の計画の中で考えていきたい。在宅避難というのは今、能登半島地震を受けてとても大事な課題と考えているので、いろいろな面で考えていきたいと思っている。

興石議員：在宅避難は、今住んでいる家にいられるというイメージがあるが、上下水道もガスも電気も全部なくなって、今いる家が単なる箱になるということ。その単なる箱になった家で、自分で拠点を立ち上げるということなので、みんなで地域防災拠点を立ち上げるのと同じように、自分の家を避難所にしないといけない。これが在宅避難は至難の業だということがだんだん能登半島地震などを通じて分かってきたので、もっと在宅避難とは何なのか、あなたの家が拠点になるということを書いていかないとならない。

これは要望だがファーストミッションボックスからさらに進めていっていただけたらと思う。

松永区長：在宅避難の件については、それに特化したものではないが、栄防災ノートというのを令和2年から発行している。この中で、在宅避難を念頭に置いた備蓄については、どのようなものが必要であるとか、避難についても在宅避難なのか、上に上がるのか横に行くのかなど、そういったところも解説している。こうしたものも使いながら広げていけたらと思う。

興石議員：子育てしやすいまちというようなこともあるので、例えば子供たちに防災キャンプとかシミュレーションをやってあげるとか、そういう2つ、3つの視点で事業をやると区らしい事業ができるのではないかと思う。ぜひその冊子も活用していただいて、まだ知らない方もたくさんいると思うので、さらに増刷するなどさらなる検討をしてほしい。

花いっぱい魅力づくり事業は、GREEN×EXPO 2027などの局事業とは別の栄区のオリジナルというところでは円海山やいたち川もあるが、区の木である桜をぜひ生かしていただきたい。資料に里帰り桜の管理委託とあり、桜のイベントをやっていく話が以前出ていたと思うが、令和6年度、何か検討していることはあるか。

田中麗子区政推進課長：桜については、令和4年度までライトアップイベントをやっていたが、高齢化した桜の伐採によってなかなか充実したライトアップができないため、一旦中止している。現在、桜の再生に向けては栄土木事務所で検討しているので、そちらの桜の生育状況に応じて、また区の魅力として活用できるように取り組んでいきたいと考えている。

興石議員：区民巻き込み型の、植樹をするときに学校の生徒とか、市民や区民の皆さんと一緒に植樹するなど、コロナウィルスによる影響でまだ社会は沈んでいると思うので、皆さんと一緒に盛り上げるようなイベントにしていただきたい。

読書活動のところで、ICT化またはデジタル化と読書というのが市会でもいつも議論になる。読書活動のデジタル化という声は少し前に高まったと思うが、栄区の最近の進捗状況はどうか。

今仁知宏読書活動推進担当課長：栄図書館の場合、まだそこまで進んだところはない。全市的には、横浜市の図書館の蔵書数は、政令市で大

阪市にも抜かれているという状況がある。書架のスペース的余裕もほとんどない中で、今後そういった面でも電子書籍の活用も考えていく話もある。中央図書館とともにその流れの中で栄図書館としてもICT化またはデジタル化を進めていきたい。

興石議員：1区に1館という図書館の考え方から、読書活動ができる場所をもう少し柔軟に拡大していこうという政策の方向に大きく切られているかと思うので、区としてもぜひその流れに乗っていただきたい。

大桑座長：高齢者のICT利活用支援事業の大学生の募集の仕方を後で教えてください。

また、花いっぱい魅力づくり事業の桜に関しては、ぜひ活用していただきたいと思う。ただ切ると言うと区民の方から大きな反響があったりするのでは、再生ということでぜひ進めていただきたい。今、いろいろな種類の桜が増えてきて、育てやすい桜などもあるみたいなので、うまくやっていただければと思う。

こどもにやさしい待合事業の状況を、次回か決算の区づくり推進横浜市議員会議で教えていただきたい。

会議報告書の作成については座長一任。了承

備 考